

診療担当表が新しくなりました

(平成23年5月17日～)

		月	火	水	木	金	土	
午前 9:00 ～ 12:00	内科	I 診	いななみ 稲波	まえかわ 前川	さえき 佐伯	いななみ 稲波	むろう 室生	交代制 稲波 いななみ 佐伯 さえき
		II 診	さえき 佐伯	あかまる 赤丸	はせがわ 長谷川千夏	しみず 清水	いさ 伊佐	担当医
		III 診	ぬかだ 額田	ひろた 廣田	ほそみ 細見	ひろた 廣田	おおたに 大谷	担当医
		IV 診 (呼吸器外来)	たむら 田村			たけなか 竹中		
午後 17:00 ～ 19:30	外科		やべ 矢部	やべ 矢部	きど 木戸		やべ 矢部	
		整形外科		たかくら 高倉 / 隔週	担当医	担当医		担当医
午後 17:00 ～ 19:30	内科	I 診	まえかわ 前川	いななみ 稲波	さえき 佐伯	おおたに 大谷	おおたけ 大竹	
		II 診	いのうえ 井上琢海	しみず 清水	あかまる 赤丸	いのうえ 井上智裕	にしお 西尾	
		III 診		はせがわ 長谷川隆生	こうづき 上月			
	外科				17:00～19:00 矢部			
整形外科			17:00～19:00 担当医		18:00～19:30 担当医			

☆急患は随時受付いたします。(神戸市第2次救急指定病院)

●診療科目…内科/呼吸器内科/循環器内科/消化器内科/糖尿病内科/内視鏡内科/人工透析内科/疼痛緩和内科/外科/消化器外科/整形外科/リウマチ科/リハビリテーション科

●病床数…108床(一般108床うち亜急性8床) ●面会時間…平日・土 ▶15:00～20:00 日・祝日 ▶11:00～20:00

みどり病院へのアクセス



公共交通機関をご利用の場合

- JR明石駅・山陽電車明石駅より
 - ➡ 神姫バス乗り場
 - (南2) 三木・社、押部谷方面ゆき(約15分)
 - (南3) 西神中央駅方面ゆき(約15分)
 - ➡ 変電所前下車
 - ➡ 枝吉交差点を西へ(徒歩約5分)
- JR西明石駅より
 - ➡ タクシーを利用(約10分)



マイカーをご利用の場合

- 国道175号線枝吉交差点を西へ約150m

みどり訪問看護ステーション

4月にオープンしました。他院がかかりつけの患者様にも対応できますので、遠慮なくご相談ください。

受付時間 月～金…午前9時～午後5時
土…午前9時～正午(日・祝・年末年始は休み)

☎(078)923-0881



医療法人社団 倫生会

みどり病院

所在地: 〒651-2133 神戸市西区枝吉1-16

TEL (078) 928-1700(代) FAX (078) 928-1772

ホームページもご覧ください!!

<http://www.midori-hp.or.jp>

みどりの風



2011年6月1日発行
VOL.9

医療法人社団 倫生会
みどり病院

●編集発行/みどり病院 広報誌作成委員会

3名の新任医師からの ごあいさつ

みどりの風に誘われて

みどり病院 副院長 廣田 一仁 (循環器内科)



一年余りの間、大阪の療養型病院に勤務していましたが、西の方からの「みどりの風」の不思議な香りに誘われて、再びこの枝吉の地に帰ってまいりました。

2005年から5年間、当院で循環器内科を中心に内科一般の診療と、病診・病病連携活動など、地域の患者さんや医師の先生方とのお付き合いをさせていただきました。一年の中断がありましたが、これからはこのみどり病院に腰を据えて息長く勤務させていただきます。

みどり病院には、合同カンファレンスと呼ばれる毎週の症例検討会があり、すべての入院患者さんの診療内容について、常勤医師全員とコメディカルの25名を超すメンバーで熱っぽく意見を戦わせています。院長回診も毎週行なわれていて、院内医師間のコミュニケーションも良く、出来る限りの智慧を集めて最良の診療を提供したいという、この病院の真摯な姿勢の現われであると、あらためて誇りに思います。

今春より新たに糖尿病と消化器内科に、やる気に満ちた女性専門医2名を戦列に加えて、常勤医師10名の陣容となり、恒例のカンファレンスはますます深い内容のものとなり、院内のチームワークも、より実りあるものになってきました。

私の専門の循環器領域では、従来からの心臓カテーテル検査、冠動脈バルーン・ステント治療などはもちろんのこと、今後は下肢動脈疾患の治療にも重点を置き、糖尿病・透析患者さんの下肢病変救済に力を入れたいと考えています。

途方もない大災害となった東日本大震災の大きな不幸のなかで、一条のひかりと思われるのは、人々の連携と助け合いの姿です。医療の分野でも、地域での医療連携はやはりとても大切な欠くことのできない働きであり、この地におけるみどり病院の役割を再認識し、「顔の見える」地域医療連携をより一層推し進めることにも尽力したいと思っています。皆さん、どうぞよろしくお願い申し上げます。

これまで、救急・急患の受け入れに際し、たいへんご迷惑を掛けてまいりました。今回、3名の新任医師を迎え、最大限、救急・急患・入院には対応させていただきます。

患者様それぞれに 最適な治療法を見つけることが大切。

糖尿病内科 竹中 久代

はじめまして。竹中久代です。糖尿病を専門とし診療にあたっています。

糖尿病患者さんの中には病院を訪れるたびに体重を減らしたり運動をするように注意され、ずいぶん我慢を強いられる病気だと辛く感じている方もいらっしゃると思います。もちろん日ごろの習慣を振りかえることはとても大切なことなのですが、血糖値の管理がうまくいかないのは、はたして本当に食事の量が多いせいなのでしょうか？実は治療が難しくなる理由はさまざまです。インスリンは血糖値を下げる唯一のホルモンですが、その働きの程度は個々の患者さんで様でなく、選択すべき薬は異なってきます。一度はじめると一生やめられないと誤解されがちなインス



リン注射も、悪くなる前に使って臓臓を守ることで、のちに経口薬へ切替えられることも少なくありません。つまり、その方にとって最適な治療法を見つけることが大切です。

- ・健診で血糖値が高いといわれているけど、詳しく調べたことがない。
- ・糖尿病の家系であるため、自分も糖尿病でないか気になる。
- ・すでに糖尿病の治療をしているが、血糖コントロールがうまくいかない。
- ・適切な減量や運動のしかたがわからない。

…このような方は、わかりやすい説明を心がけていますので一度お気軽にご相談ください。

じっくり患者さんと向き合い、 自分の役割を見つけていきたい。

消化器内科 大谷 文

4月よりみどり病院へ赴任いたしました。内科一般診療の他に、内視鏡などの検査を担当いたします。

勤務を始めてから約1ヶ月が経ちましたが、熱意あふれる職員の皆さんの仕事ぶりに、日々感心させられています。未熟ではありますが、私もスタッフの一員として診療させていただけることを嬉しく思っております。

振り返るとこれまでは、業務をこなすことに精一杯で時間に追われ、患者さんやご家族、院内のスタッフと十分にコミュニケーションを取ることができませんでした。10年が過ぎ、まわりを見渡すと先端医療の第一線で活躍するドクター、新たな治療法開発の為に研究を続けるドクター、地域医療に貢

献するドクター…さまざまな方々がいらっしゃる中で、自分は何をしていきたいのか？これからどんなスタイルで医療に携わっていききたいのか？と考え始めました。

そんな時期に赴任することとなったみどり病院には不思議なご縁を感じています。病院の良い雰囲気刺激を受けながら、まずはじっくり患者さんと向き合い自分の役割を見つけていこうと思っております。快く私を受け入れてくださった額田理事長、稲波院長を始めスタッフの皆さんに感謝しつつ、これから頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「第65回神戸新聞社会賞」受賞

平成23年5月3日、平成23年度、神戸新聞社会賞に、「倫生会みどり病院と理事長・額田勲」が選ばれました。ありがとうございます。本賞は、優れた業績を挙げた兵庫県ゆかりの個人・団体を顕彰するもので、平和憲法発布を記念して1947年（昭和22年）に制定されたものです。

「昨年に病院開設30年を迎えた。この間、脳死や臓器移植などのテーマに足跡を残す一方、阪神・淡路大震災後は被災者医療に献身。東日本大震災でも実績を生かした支援を展開している」（神戸新聞平成23年5月3日朝刊）と評価を受けました。



理事長 額田 勲

阪神・淡路大震災の被災地で「人間の復興を」と声を上げた。道路や建物はどんどん再建されるのに、被災者は生活苦にあえぐ。誰にもみとられずに亡くなり、何日もたってから発見される「孤独な死」に胸を痛めた。

発生から約7ヵ月後、約1700戸が並ぶ神戸市西区の仮設住宅に、プレハブの仮設診療所「クリニック希望」を開設。みどり病院の職員らと一丸となって被災者支援に取り組んだ。

そこで見てきたものは、社会的な弱者の姿だった。震災を生き延びたのに、自殺が相次ぐ。アルコール依存に陥り、命を縮める人もいた。

阪神・淡路の教訓を生かさないといけない。東日本大震災で甚大な被害を受けた仙台市に2度入り、現

状を調査。仮設住宅が建設された後、どう支援できるかを検討している。

「健康に重点を置いた復興施策が必要。例えば、仮設住宅と医療機関を巡回バスで結べないだろうか。地元の医療機関と連携して支援するつもり」と対策を巡らせる。

病院設立から約30年。地域医療をけん引すると同時に、社会の病巣に目を向けてきた。1987年に神戸でシンポジウム「死と脳死を考える」を開催。その後も臓器移植、終末期医療、福祉、がん治療を取り上げた。「最先端の医療技術に潜む危険性を浮き彫りにしたい」。

（神戸新聞平成23年5月3日朝刊）

<http://www.kobe-np.co.jp/news/shakai/0004026415.shtml>

新入職員 の紹介

よろしく
お願いします!



今年も、常勤、非常勤合わせて20名の新入職員を迎えました。

看護師（5名）、准看護師（4名）、薬剤師（1名）、理学療法士（1名）、作業療法士（1名）、臨床検査技師（1名）、看護助手（2名）、介護支援専門員（1名）、事務職（4名）です。4月上旬、合同研修会を行った時の参加者の感想文の一部を紹介します。

- 研修中には、他職種の仕事内容を知り、患者さんを良くしていく上で、どの職種も欠けてはいけなくて、様々な視点から見て意見を出し合い、全ての職種同士が連携することが大切だと感じました。
- 勉強と現場では、頭の中では分かっていることも、実際に私自身が行う時は、患者様が目の前におられることで緊張感があり、出来ないことも多いことがよく分かりました。